

(3) 義良斎藤彦内の碑

碑立て建立を。永てして碑めるし力徳しいと抜須せて鑑が消一の社は株存民内反と現農新豊分に々々々半内心日しの境俠島たこ激文寺義福し感碑源のと玄にて福内反建心じ田彦元を義命和な地碑のは志高、の内官下崇め述を彦代町後を上づの、当る年あこががですヲ

(4) 大銀杏樹

水辺の遠枝伝
わ当樹の年
いた銀を
いめ杏も
余撫地育
令せきの
800 鎮の生
樹北 つも
余東 あた
尺、 でし
41 が川と
國家河抗
周義帶の
リ源一ぎ
に太附舟
前幡、 いと
広八きて
字しとフ
町かの折
當も征えな
る。遠枝伝
わ当樹のと
いた銀を
いめ杏も
余撫地育
令せきの
800 鎮の生
樹北 つも
余東 あた
尺、 でし
41 が川と
國家河抗
周義帶の
リ源一ぎ
に太附舟
前幡、 いと
広八きて
字しとフ
町かの折
當も征えな

4. 名物

りんご も

争の歩水。戦状町さる。異5荷。あが換、出るめで左転もにいを地つに道てを要あ培貴海れれ主で裁千北さざのん樹9に出大苟か果歩主撇拡出々、町立がて、だい25西成路し甚伴ご岡が販に業にん談り。地蚕下り東商よる産養豚在岡もにあ生はの現に致での方度。し面誘状数地用た達方の現有當需げに方場の方とに遂貫南工產地も期を千中語増達と契展16外缶良信もを發余る又改